

追い詰められた反動暴力分子 「動力車労働組合・千葉事務所」をデッチ上げ！



革マル幹部・鈴木真一、神保等が常駐し、三階から見張り？が常時顔を出している「三信ビル」

「本部」反動暴力集団は新小岩、津田沼支部に消耗し切った二〇〜三〇名が連日現われ、裏切り者「防衛」を口実に暴力的挑発を行い、職場のアラさがしを行って「三項八項を適用しろ」などと本社↓千葉局という形で当局に泣きつき、権力・国鉄当局を使って、この間の動力千葉と国鉄の闘いで築きあげた津田沼の労働条件や職場慣行を破壊し、そのことを通して動力千葉を弾圧させるといふ策動を行っている。

動力千葉の団結強化とス パイ・裏切り分子の消耗

このような労働組合にあるまじきやり方が一四〇〇組合員に受け入れられるはずもなく動力千葉の団結はますます強固になっている。一方、東洋大の学生革マルから動力千葉破壊のために経歴・素性等を完全に偽って送りこまれた潜入スパイ島田誠と「私怨」や「私利私欲」で動いたその他の裏切り分子は各々に消耗と孤立を深め、反動暴力分子は本来の陰険で暴力的な体質をより露骨に出さなければ彼らの「防衛」すらままならなくなっている。

今日、反動暴力分子中枢は第三五回全国大会で、焦りに焦って「千葉地本」再建は前進している」というウソを陰然たる暴力をもって「機関決定」し、その後も「もう少しで再建できる」というウソを積み重ねて労働組織を引きまわしてしまつたが故に、実態のない「成果」をさらに打ち出さなければ組合員をダマシ通すことができないという窮地に追い込まれているのだ。

デマを正当化するための口実

自らの「デマと暴力」の路線が動力千葉の強固な団結によって、いままさに打ち破られんとする状況の中で、反動暴力分子はさらに「ウソの上」にウソを塗り固める「やり方」で「七名の決起によって動力千葉はもうすぐツブれる」というデマに真実味をもたせるために、津田沼駅近くの貸ビルに

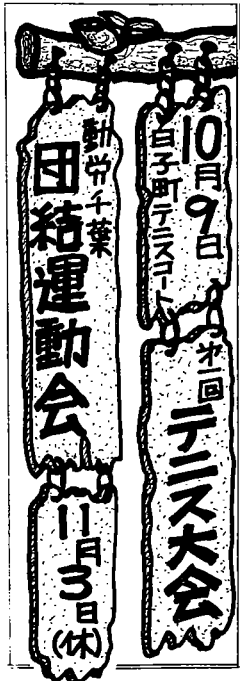
部屋を借り「動力車労働組合千葉事務所」なるものをデッチ上げ、九月二五日夜刻、暴力分子のボディーガードに守られた八獄委員長までかつぎ出して、文字通り「中味」がなんにもない「器」だけの「事務所開き」なるものを開催した。

実態は暴力団詰所

しかし、「金をつかえば何とかなる」という労働者ベツ視の思想でコリ固まつた反動暴力分子が、いかに「成果」があがったというテイサイをとろうとしても、津田沼支部をはじめとする動力千葉組合員がそんなことでダマされるはずもなく、組合費のムダ使いを象徴する「事務所」は動力千葉の各職場を破壊するためのみ設置された「暴力団詰所」でしかありえない。事実この「事務所」は、この間、津田沼や新小岩で消耗し切った反動暴力分子が革マル幹部・鈴木真一や神保から「カツ」を入れられる場所として使用されており、「くたびれてしまつてどうしようもない」とグチル動員者をなんとかつなぎとめるには、「近ければいい」という単純発想にしかすぎない。昼・夜ビクツイている反動暴力分子の陰悪でモノモノしいふん囲気はすでに近隣の嫌われものとなっている。

所詮は一時しのぎ

追いつめられて「事務所開き」という「麻薬注射」をしても、それは所詮一時しのぎにすぎない。あとは反動分子には「再建支部」または「再建地本」という「麻薬」ぐらいしか残っていない。実体のないものをいかにデッチあげようが、時間が経てば事実が明らかにになり、そのときがわれわれの勝利のときである。いま各支部から、この「事務所開き」に口実を与えたスパイ・島田や裏切り者に対する怒りが噴出している。この怒りを正しく労働運動として生かし切り、反動暴力分子の動力千葉破壊策動を粉砕してゆこう。



79.9.28
No.234

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
〔鉄電〕二五八・九・(公衆電話)二七二〇七